

平成30年12月1日発行 広報のぎ(567号) ◆発行 野木町 ◇編集 野木町広報委員会 ●野木町役場総務課秘書広報係 〒329-0195 野木町大字丸林571 電話0280(57)4134

のぎ子通信

赤羽みちえ

野木ホフマン館 歴史講演会

平将門の乱と野木・古河地域

一般、町民を対象に、講演会を通して分かりやすく解説するとともに、歴史的背景や意義を知ることにより、野木町悠久の歴史に対する理解を深めることを目的として実施します。ふるってご参加ください。

【日時】 12月16日(日) 14時～16時
【場所】 野木ホフマン館研修室
【定員】 50名
【対象】 町内外を問わず興味のある方
【費用】 無料
【講師】 茨城大学人文学部 非常勤講師 内山 俊身 先生



【申込方法】 ホフマン館にお電話又は直接来館にてお申し込みください。
【申込期間】 12月1日(土)～14日(金) 9時～17時

野木ホフマン館 (月曜休館) ☎(33)6667

わが家のアイドル



水井 七海ちゃん (1歳3か月)

笑顔がかわいい七海。1歳になってできることが増えたね。元気にあくあく育ってね。

「わが家のアイドル」に掲載希望の際は、総務課☎(57)4134へお申し込みください。



くじら島のナミ

浜口 倫太郎 著
 出版者 デイスクヴァー・トウエンティワン

図書館司書 大日方 佳織

この本と出会ったきっかけは、夫からのプレゼントだった。まず、その表紙の美しさに目を奪われた。海を舞台に描かれている作品のイメージを、表紙から感じる事が出来る。大きなくじらを先頭に、仲間達や大小様々な魚たちが泳いでいく様子と、一人の少女。この物語は、島のように大きくくじら「ジマ」が、嵐の海で見つけた人間の赤ちゃん「ナミ」を背の上で育てていく話となっている。他のくじらやカモメたちと協力しながら、みんながナミを育てていく姿は、くじらと笑ってしまったりハラハラさせられたり、ページを捲る手が止まらない。ナミが5歳になると、ジマは北に存在する「マジックオーシャン」という場所へ旅に出ることを決意する。それは、くじらたちが生き延びるために必要な旅であり、死の危険がある過酷な旅でもあった。本来、陸で生きていくべき人間のナミが、ジマやその仲間達たちと暮らしていく中で様々なことを学んでいく。一緒に旅をして、成長し、思い出もたくさん増えた。それでも、ジマは心の片隅で「このままではいけない」と思っていたのだらう。人間には人間の、くじらにはくじらの生き方がある。過酷な旅を終え、ジマはナミと離れる決心をした。

本書は、難しい漢字も少なく児童書にも近い作品となっている。大人も子どもも関係なく、全ての人が読んでもらいたい物語となっている。

町の人口 11月1日現在
 ◇人口 男 12,525人 女 12,611人 計 25,136人 ◇世帯数 9,960